

感想発表会 議事録

日時：平成14年5月20日（月）

場所：揖保川町役場

庶務 それでは今日は本当にお疲れ様でした。先週の14日に他の委員の方に見ていただいたのとはほぼ同じ行程でまわり、説明はテープで再現いたしましたので皆様には先週と同じような内容を一通り見ていただいたということになります。ここで休憩を兼ねて皆様に今日の一日現地を見ていただいた感想といったものをお伺いして、今度27日に委員会がございしますが、そちらのほうの審議内容を検討する上での参考にさせていただきたいと思っております。では、増田委員から順番にお願いします。

増田委員 河口のほうでも、ちょっと申し上げましたように下流の方では、これまでにお寺が立ち退くようなこともございました。網干ではこれまでに何回も立ち退きを繰り返しています。これからも川を広げるということを聞いております。それから、龍門寺につきましても、姫路市の文化財の指定とかいろいろお世話をしましたが、あの時は当時の建設省さんと、寺の存続についての話し合いもさせていただきまして、お蔭様でお寺の中の約半分ぐらいまで修復することができております。そして中川に架かる橋でございしますが、ずいぶん高いものができましてちょっと自転車で橋を越えられるということができなくて、地元からは、お年寄りや自転車に乗って渡ることができないというような苦情もちょっと聞いております。

正田委員 毎日目の前で見ている揖保川なんですが、上流のほうから下流のほうまで何かの機会につけては触れているつもりでしたが、今日のように一番上流のほうから順序立てて、いろんなご説明を承りながら要所要所を見せていただきますと、本当に川というのは生き物だなという感じがしました。そこに自然の移り変わりとか、人間の手の加わった歴史の移り変わりとかいろんなものを感じました。最後に印象に残ったのは浅見委員のせせらぎ公園の整備に関する問題提起がございました。今日見せていただいたものの中にも、ずっと入ってくる人間の営みと、何かギクシャクとくる営みとがあります。いろんな知恵を傾けて、生きている川のこれから先が良い歴史を重ねてもらえるようなことを考えることはものすごく大事だし、難しいことだなあと思いました。兼ねがね覚悟はしてましたけど、その思いを一層強くいたしました。

道奥委員 これまで2～3度、工事事務所さんの方にもお世話になりまして、拠点的に、ローカルに、部分部分川を見せていただいていたんですが、今日はかなり上流のほうから一貫して見せていただきまして、非常によい機会を与えていただき、ありがとうございました。最上流まで行ってませんので、どちらかと言うと中流から下流に向かってという感じでしたが、概して中

流という感じ、最後まで行って結局ずっと中流みたいな感じの川だなというふうに感じました。というのは、最下流のほうに到るまでほとんど山付きの部分が断続的に続いているような川ですし、そういった山付きの部分が狭窄部をもたらしており、水にとっても交通にとっても難所になっている部分が所々にあって、それが河川管理者の方で出された資料の中で所々流下能力を満足されていないところがあるということを反映しているのではないかなと思いました。

ずっと中流だなと思いましたのは、多分地形的にもいわゆる沖積平野の部分というのはほとんどないと思いますが、防災ステーションや堀家のあたりが多分扇状地の要になっているのではないかと思います。浅見委員の丸石河原の植生の説明などがあったあたりですが、沖積平野の河川でしたら下流部ではもっと粒径が小さいのですが、龍野あたりでもかなり大きな粒径で、改めて扇状地だなと思いました。そういう扇状地で伏流した水が龍野の醤油産業を支えられているのだなということが直感的に分かったような気がいたします。

先ほど申しましたように、狭窄部があって水も通らないし、交通的にも難所というところが所々にあるということから分かりますし、前回の視察の各委員からのご説明からも分かりますように、非常に利水面でも治水面でも川を効率的に、できるかぎり上手く、最大限利用されているということです。例えば舟運、筏流しと、灌漑との話し合いによる使い分けとかをみても、非常に川を地域の中でバランスよく使われている。そういう文化があるということです。多分それは上流から下流まで各地域ごとにあったのだと思いますが、一方では、そういう交通と水の難所である部分がおそらく昔は阻害要因になっていたのではないかなということもございます。地域内ではまとまっていることと思いますが、やはりその地域の文化や町ごとの文化というのはなかなか上下流方向にはつながりにくかったのではないだろうかと思います。今でこそ道路で通っていますが、おそらくそういう文化というものは古い時代からの積み重ねですので、今揖保川の流域ということを考える時に、今日見せていただいたようなことを考えると、やはり上下流方向でずいぶん川に対する考え方が違うのではないかな。地域内では非常にまとまっているかもしれませんが、上流・下流それぞれで利用の仕方も違いますし、考え方も違うということが、おそらく今後の流域委員会での議論の中で出てくるのではないかなというふうに思いました。

南北方向にそういうふうに断続してるんですけども、揖保川の場合は林田川と本川というかなり大きな2本の川が並行して流域をつくっています。それぞれが最下流手前までつながっていない、おそらく文化的にも地域的にも違う流域として分断されているのではないかなというイメージを受けました。林田川のほうは下流しか見てませんのでよく分かりませんが、おそらく昔はそんなに地域間の文化交流があったわけではないのではないかなと思われました。南北方向の分断性もそうですが、東西方向についても、林田川流域と揖保川流域が接するのが最下流であるということもあり、1つの流域としてなかなか考え方を統一しにくいのではないかなと思いました。

庶務 ありがとうございます。第3回委員会は、27日山崎町の山崎防災センターで午後2時から行われます。この委員会での審議の項目は、前回と今回の現地視察の皆様の感想を踏まえまして、今週、藤田委員長とご相談した上で決めていきたいと考えております。27日まであ

まり日がございませんが、もし庶務のほうでこういった資料を用意しておいたほうがいいのではないかとかといったリクエストがございましたら、今日承っておきますので、もしございましたら、ご提案いただけたらと思います。

正田委員 今のお話ですけど、川幅が狭くなっているところは、川幅を広げるしか方法はないのでしょうか。他にも方法があるかどうかというような基礎的な知識を、知る場というのではないのでしょうか。

道奥委員 今日水防林が所々あったりしましたが、昔は、水が溢れるというのは当たり前みたいなところもあったようでございます。古い家は全部盛り土をしますし、現在は国土交通省さんのほうでも防災ではなく減災と言われていますが、災害を前提とした生活の仕方というのが上中流部のほうにずいぶんあったのではと思います。今も無堤部分がたくさんありますし、そういう暮らし方というものもあるのではないのでしょうか。ただし、湧水地みたいな、霞堤みたいなものはありませんでしたが。

正田委員 竹やぶが結構ありましたね。

道奥委員 そうですね。水防林がありましたね。

正田委員 100年に1度のリスクを救わんがために失うものが余りにも大きいという場合、そのバランスをどうするかというあたりが頭をひねってしまいます。

庶務 すぐこの場でこういったものがご用意できますとお約束できないのですが、検討したいと思います。ほかにはございませんか。

道奥委員 山崎町から上流部の治水、利水などのお話をうかがい、現地を見せていただきましたが、その他の地域でも、おそらく地元の方がいろいろな意見をお持ちだと思います。次回でなくても結構ですので、そういう川との接し方、地域性を学ぶことは、非常に参考になるのではと思います。

庶務 そうしましたら、おそらく藤田委員長も前回おっしゃっていましたが、今度の委員会では今日現地を見ていただいた感想をもう少し掘り下げて今後の委員会の審議のテーマを決めていくとかたちになるかと思います。

予定時間よりも少し早めでございますが、これで本日の行程を終了させていただきます。皆さん、どうもお疲れさまでした。